



カトリック笹丘教会

教会 ニュース

2013年
8月号

福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会

キリストの内に一つに



主任司祭 遠山満

先日、教会学校の子どもたちと一緒に、大分の安心院と言う所に、一泊二日で黙想に出かけてきました。自然に恵まれた、美しい場所です。宿泊した夜、私は少し疲れていたせいか、周囲で子どもたちが賑やかにしているにも拘らず、夜8時くらいに床に就きました。そのせいか、深夜の1時半くらいに目が覚めました。それから、驚くような夜を過ごしました。暫く耳を澄ませていましたら、ヒグラシの鳴き声が聞こえてきました。それが暫く続いて、今度は夏の虫の鳴く声です。「ジー、ジー」と鳴いていました。その次は、カジカガエルだったろうと思います。ひぐらしと同じような声で鳴いていました。そして次は、野鳥の番でした。鶯を始め、野鳥が鳴き始めました。鳴き声は、帯状に、生き物たちが、あたかも分担を決めて鳴いているかのようでした。

この時の生き物たちの鳴き声は、私に、「博多へきんしゃい」の時の笹丘ファミリア楽団の練習風景を思い起こさせました。テノール、バス、ソプラノ、アルト、それぞれのパートで練習しながら、お互いの歌声を聴き合っていた時のあの時の風景です。本番当日は、その声と一緒に、福島を始め、東北の人たちの心に届いたのではないかと思います。

ところで、今月25日に、私たちは司教様を迎えて堅信式を行います。それは、堅信の本来の奉仕者が司教だからです。特別な場合、司祭が奉仕者になりますが、その場合でも、司教の協力者である司祭と、司教自身によって聖別された聖香油が用いられることによって、受堅者と司教との繋がりが表現されます。司教は、私たちにとって、キリストの代理者であり、教会の一致の目に見える根拠であり、基礎です。キリストが、最後の晩餐に向かわれる前に祈られた祈りの言葉、「皆が一つになりますように」を実現する為に、私たちは具体的には、司教のもとに一つになって神の国の建設に従事しながら生きて行くのです。

私たちは、ある意味、キリストが指揮者であるオーケストラに入っているようなものかもしれません。オーケストラの中に、二人の指揮者がいれば大変なことになるってしまいます。そういう意味で、私たちは、私たちの指揮者であるキリストを良く見つめなければなりません。そして、キリストの指揮に合わせて、私たちも神への賛美と感謝を奏でることができたらと思います。私たち一人一人に与えられたタレントを用いながら、神の恵みの演奏者になっていくことができますように、必要な力を願いましょう。



拡大信者会議事内容

日時：8月4日（日）11時30分より

場所：教会信者会館 講話室

1. 初めの祈り

川原会長より挨拶…カトリック新聞から、教皇フランシスコの言葉
主任司祭より挨拶…平和旬間にあたって、平和の大切さについて

2. 議題

1) 堅信式とアウグスチノ祭について

日時：8月25日（日）

10時～ 堅信式ミサ

12時～14時 祝賀パーティー

ケータリングを利用し、立食形式のパーティー。大学生以上は会費500円。

100人規模のパーティーになる予定。参加者は名札着用のこと。

2) ホール脇の倉庫の整理について

整理のためにまず倉庫内に棚を設置する予定。準備が整い次第、整理にかかる。
その際ご協力をお願いしたい。

3) 信者会館の図書について

信者会館の図書の充実の計画

4) 掲示板について

現在、3基の掲示板がある。道沿いに1基、教会に2基。道沿いの物は宣教に役に立っている。（この掲示板が、二人の人のキリスト教講座参加のきっかけとなった。）しかし現在、雨が降りこみ、掲示物が濡れたりするので、新設する必要あり。他の2基の掲示物についても検討する必要あり。もう1基、照明が当たっている北側壁面に掲示板を設けてはどうか？

5) 信者会館の傘立てについて

利用者が少ないので、丸椅子の収納庫を設置し、その上にマリア様の御像を置くようにしたらどうか？

6) 教区の日について

11月23日（土）行われる予定。教区の日までに、各小教区で行われている取り組みが取りまとめ、報告される予定。笹丘は、大人の日曜学校で行っている、第二バチカン公会議の公文書を基にした振り返りの取り組みを報告する予定。

3. 終わりの祈り

4. 次回の拡大信者会…9月1日（日）（お知らせなどで案内）の予定。

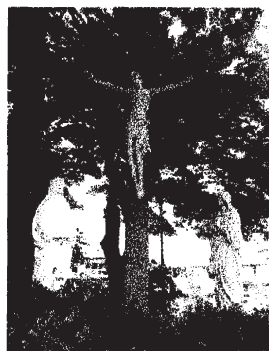
前日8月31日（土）には役員会の予定。

サムライたちの殉教 「米沢・北山原(ほくさんばら) 」巡礼

「いにしへの じゅんきょうしゃたちの じゅうじかは
ほくさんばらに かがやいて ころろにひびく かみのこえ
ああ いまもなお このよねざわに しんこうはひとつ」

これは米沢の殉教者賛歌の一節です。

2013.7.17 先にペトロ岐部司祭らと一緒に列福された、ルイス甘糟右衛門らが殉教した山形県米沢市の北山原殉教地等を巡礼した。当日は米沢教会の信徒で地元の殉教者たちの研究をされている森ご夫妻（森さんは森果樹園でさくらんぼ、桃などの栽培農家を営んでいる）の出迎えをうけ、米沢教会でお茶をいただき、一通りの説明を受けたあと、ご主人の案内で霧雨の北山原殉教地へ向かった。



北山原殉教地

殉教当日（1629.1.12）の様子は次のようなものだったようだ。殉教者たちは雪の中を、先頭に聖母マリアの旗を高々と掲げ、全員が晴れ着にロザリオといういでたちでした。刑場に着くと中央に聖母マリアの旗を立て、周りに輪をつくって跪き、祈っていました。すると、ひとりの奉行が見物人に向かって『ここで死ぬものは、信仰のために命を捨てる、身分の高い人であるから皆土下座するようにと』命じた、その後、みんなはイエズス・マリアの御名を叫びながら斬られ殉教しました。

甘糟の時代、司祭は年数回、密かに巡回してきて、ミサとゆるしの秘跡をしていた。それ以外は信徒のリーダーが要理を教え、洗礼や冠婚葬祭を取り仕切り、また互助会制度により貧困者や病人、孤児らの世話をしていた。

今、信徒の時代といわれて久しいが、共通祭司職に招かれているわたしたちの信仰生活はどうだろうか、福音の価値観で生活しているだろうか。

今回の巡礼では、依然わたしたちが列福前に上演した「捨てがたき宗旨故」のDVDと感想文集を持参したが、二十数年前に殉教劇「北山原」で甘糟右衛門の役をされた方から、「すばらしかった」との感想をいただいた。同じ信仰で北と南が繋がったと感じた。どの殉教者たちをみても、信徒自身による信徒養成がきちんとされていることがわかる。さて、わたしたちは、共同体の一員として、また、キリストを生きるものとして、小教区を支える担い手の役割を果たしているだろうか。

川原義広

誰も悪くない！ 前向きに生きたい！

2011. 3. 11 宮城県南三陸町の志津川湾はまるで大きな洗濯機になっていた。人も、家も、車も、橋も、道も、何もかもが、そのとてつもない大きな、大きな洗濯槽の中でぐるぐるとかき回され、すべて津波に持って行かれた。

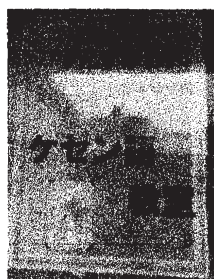


あの日、町の防災庁舎で「高台に逃げてください」と叫び続けた天使の声の主も津波に飲み込まれてしまった。今は、庁舎の鉄骨だけを残して。手を振りながら、渦に飲み込まれていく人々を助けられなかったと自分を責める人、仮設住宅でひとりぼっちの人もたくさんいる。

そして、天使が命を賭して叫んだ「高台」（タカダイ）の意味も解らない、外国からここに嫁に来ている人々がいる。

今回、その外国からの人々から「姉」と慕われ、いろんな世話をしている「佐々木アメリカ」さんとお会いして、是非、直接話を聞きたいと思っていたがやっと実現した。彼女とは宮城の仙台、塩釜地区の女性の会を通じて、少し支援してきていたが、今、被災者特に外国から日本に来ている人々は何を考え、どんな支援を期待しているのかを聞いた。

今回の津波は彼女たちの日本での家族と彼女たちからの支援を頼りにしている母国にいる家族の生活も困難にしまった。



しかし、今、何もかも失った彼女らは前向きに生きようとしている。「ケセン語」教室である「高台」（タカダイ）の日本語を学び、介護士の資格をとった人もいる。そして、「ときどきデイハウス」を開き、ことばの壁を乗り越え、ひとりぼっちの老人たちと交流している。

震災から二年四カ月、「がれき」は片付けられ、街だったところには草が生え緑が増えていたが、反面、町の奥の方では津波によって半分枯れかけた杉林がそのままになっていた。震災の復興にはまだまだ長い年月が必要だ。今、わたしたちに求められているのはまず、彼女たちのことを忘れないこと。そして、物資の支援だけではなく、彼女たちをはじめ被災者をひとりぼっちにしない、心と心が繋がる支援を息長く続けていきたい。



「生かされた大切な命に感謝、願わくば彼らに元気を！」 川原圭子

2013年9月 日曜学校予定表

	9月1日	9月8日	9月15日	9月22日	9月29日
1年生	敬老会 カード作り	初聖体 準備	子どもミサ 準備	初聖体 準備	初聖体 準備
2.3.4年生	敬老会 カード作り	日曜日に ついて	子どもミサ 準備	召命の集い の作品作り	召命の集い の作品作り
5.6年生	敬老会 カード作り	堅信を受け ての振り返り	子どもミサ 準備	召命の集い の作品作り	召命の集い の作品作り

編集後記

7月だったか、仕事帰りにコンビニに寄った。ふと本棚見ると、「教会の基本」と題したカラー版の本が目飛び込んだ。手にとってチラッとめくってみると見やすい上、580円とお手ごろだったので迷わず買った。この本は他に、お寺の基本、仏像の基本、ニッポンの城、などのシリーズがあるようだが、その時は教会のものしか置かれてなかった。教会に関するハンドブックがコンビニで目立つように置かれていたことがうれしかった。ちなみに内容は、カトリック教会超入門（教えてくれた人長崎大司教区司祭下窄英知と書かれていた）、聖堂のすべて、ミサと礼拝のマナー、キリスト教の歴史、教会の基礎知識、聖書の基本、さらに、「訪れてみたい教会」とうたって10箇所ほど由緒ある教会が紹介されていた。一般の人が、このようなきっかけで、教会に興味を持ち、興味本位でよいから教会を訪ねる人が増えればよいと思った。広報の重要さと教会の建物自体が広報の役目を持っていることをしっかり感じたひと時だった。(N)

